ル処ト思フノデアルガ少ク処ニヨレバ當時平田検事ハ支那ニ逃レタ犯人逮捕ノ為警官ヲ伴レテ上海迄モ出張サレタト写イテ居タノデアルガ其後當ノ犯人ハ現ニ東京ニ舞戻ッテ来テ大道ヲ濶歩シテ居ルト云フ事実ガアルノデアル、恐ラク未ダ時効ニ懸ッテハ居ナイ事件ダト思フノデアルカラ私ハ本件砍山被告如キヲ逮捕サレル位ダッタラ何故ニ右ノ如キ犯人ヲ逮捕サレヌカラ伺ヒ度イ処デアル、次ニハ大正十年九月三日例ノ安田銀行頭取安田善次郎ヲ暗殺シテ「死ノ叫ビ声」ト題スル公開状ヲ遺シテ自殺シタ朝日平吾ニ関スル事件ガアルガ私ハ今茲デ其ノ死の叫ビノ第一項カラ九項ニ亘ル全文ヲ公開スル事ハ遠慮スルケレ共顧ミレバ本件ト五・一五事件ト殺

右ノ如クニシテ横田弁護人ノ弁論ヲ終レバ引續キ直チニ伊藤弁護人ノ弁論ニ移ル、時ニ午後二時四十分

オ　デハ引續イテ伊藤弁護人ニ、

伊　私ハ今迄ノ弁護人トハ異ツタ見地カラ頭山被告ノ為ニ論ジテ見タイト思フ、御承知ノ通リ我国ハ有名ナル地震国デアツテ建国ノ昔ヨリ地震ノ御被国民ハ根ヒ與ツテ来テ居ルノデアル、本件五一五モ即チ社会的ニ起ツタ処ノ一ツノ大地震デアリ遠クハ大化ノ改新ノ亦其レデアル、被告頭山ハ東亜民族ノ提携ヲ図リ一面青年子弟ノ志氣ヲ鼓舞スル意味ニ於テ天行会ナルモノヲ創設シ本間憲一郎ハ之ヲ理事トシテ干係シテ居タモノデアルガ本間ノ縁故デ井上昭氏ガ頼ツテ来

タノシ泊メオイタ事カラ古賀、中村両中尉ト相識ルニ至リ拳銃調達ノ依頼ヲ引受ケテ幇助ノ形ヲ以テ関ハルニ至ツタモノデアル、併シ乍ラ私ハコンナ事ハ抑々有形トカ無形トカ論スベキモノデハナク私ハアツサリト証拠不充分也トシテ無罪ニセラルベキモノデアルト信ズル者デアル、然ルニ之ニ対シ厳刑ヲ以テ臨マレルト云フ〇ハ見当違ヒモ甚ダシイト云ハネバナラヌ、頭山被告ノ思想ノ穏健中正ナル事ハ当法廷ニ於ケル本人ノ陳述ヲ見テモ判ル処デアルガ被告等ノ所謂政党ノ罪悪ナルモノハ今迄ノ弁護人ニ於テモ既ニ蛸ノ出来ル程述ベラレタ処デハアルガ私ハ唯一ツ彼等政党ノ所謂「憲政常道」論ナルモノヲ最モ不快トスル者デアル事ヲ一言申シ上ゲタイ

彼等ノ所謂憲政常道論ナルモノハ其根源ハ英国カラ来タモノデアッテ夫レハデモクラシーノ英国ニ於テハ許サルベキモノデアッテモ我ガ日本ニ於テハ決シテ許サルベキ性質ノモノデハナイノデアル、独リ彼等若年也ト雖モ代ノ見ルベキ処ヲ見テ居ルノデアル

彼ハ我ガ日本民間志士ノ永久的生命ヲ継承セラズテ有ルベキ運命ヲ持ッテ生レテ来テ居ル者デアル、彼ハ東亜ノ民族ヲ直チニ融和セシムベキ運命ヲ持ッテ来テ居ルノデアル、五、一五事件ノ被告諸君ガ我国ノ永久的生命ヲ把握セシメムガ為ニヤラレタル今回ノ事件ニ対シ願クハ永久ニ模範トシテノ残ルベキ名 判決ヲ下サレム事ヲ念願シテ此弁論ヲ終リマス、

オデハ本日ハ之デ閉廷致シマス、次回ハ一月十三日

ク、

午前十時、
以上ノ如クニテ午後三時四十分無事閉廷セリ
右及申(通)報候也

特高秘二第一四〇號

昭和九年一月十五日

警視總監 藤沼庄平

内務大臣 山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五・一五事件民間側公判状況ノ件（第三十九報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第三十九回公判ハ本日午前十時十分開廷午后二時四十分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ通リ

記

一、日時 一月十二日 自午前十時十分至午后二時四十分

三九四

一、場所　前会様

一、裁判長以下係判検事全

一、被告人橋本三郎外全部出席

一、弁護人(本日出席者)

金石一雄、竹内重太郎　中川孝太郎

秋山高三郎　栗田弘　奥山八郎

一、傍聴人

一般傍聴人　三〇人

特別〃　五人

家族〃　五人

一、一般状況

警戒其他異状ナシ

一、公判状況

ノ公判廷ニ於ケル特異ノ状況ヲ認メス

2. 午前十時十分開廷宮川弁護人ハ本件ニ相類似スル事件トシテ幕末ニ於ケル志士ノ行動及維新後ニ於ケル佐賀、萩、熊本ノ乱ヲ挙ゲ當時ノ状況ヲ説明五、一五事件ト比較シ今日ニ於テ當時ノ逆臣ガ必ラズシモ其然ラザリシ所以ヲ詳述シ併セテ本件ガ「ロンドン條約」締結ニヨル當然ノ帰結ニシテ真ニ止ムヲ得ザルニ出デタル旨ヲ述ベ現行刑法ガ必ズシモ死刑ヲ要求シ居ラザルニ付各種ノ事情ヲ参酌判決アリタシト結ブ

3. 秋山弁護人(頭山ノ弁護人)

歴史ハ之ヲ大観スレバ現状ノ維持(保守)ト現状ノ打破(進歩)ノ拮抗斗争ヲ以テ終始シ徳川三百年ノ政治ニ歴史上最モ大ナル「エゴイスト」振リヲ発揮

シタ日露戦役戦勝后ノ日本ハ徒ニ安逸ヲ事トシ乃木将軍ノ殉死関東大震災ニモ目覚メス本件ニヨリテ初メテ覚醒シタト本件ノ特異性ヲ説明シ刑法ガ反社會的行動ヲ犯罪ノ対照トスルニ本件ガ其然ラザル所以ヲ説キ併セテ「殺人罪」ニ関スル法理論ヲ述ヘ独乙ニ於ケル政治的殺人罪ノ統計ヲ挙ゲ之ガ取扱ヲ示シ頭山ノ犯罪事実ヲ研詐シ法理論ヨリ其無罪ナル所以ヲ高調終了ス

4. 竹内弁護人（本間弁護人）

動機及本間ノ國家信念ハ裁判所ノ明鑑ニ訴ヘ不肖ノ弁論ハ毋上却テ誤リヲ生ムノ因トナラン事ヲ恐レテ喋々セズト冒頭シ

イ. 爆発物取締罰則違反ノ点ハ仝第五條違反ニシテ

責任アリト認ムルカ故ニ此点ニハ触レズ

ロ、殺人及殺人未遂幇助ニ関シ被告ハ拳銃手交当時ノ計画ヲ正確ニ知悉セズ且決行点五度其計画ニ変更アリテ單ニ抽象的概念的信念ヲ有シタルニ止マルニヨリ刑法上ノ責任ナク従ッテ爆発物取締罰則第五條ニヨリ三年トシ其ノ動機ニ鑑ミ酌量ノ上減刑サレタイト結ブ

一、弁論大要

ハ、中川弁護人

本件ト相類似スル事件ヲ丁史ニ求メテ批判シテ見タイ

徳川ノ政治ハ徒ニ形式ニ流レ一時ノ偷安ヲ事トシテ居タカ此時ニ当リ頼山陽等ニヨリ水戸斉ハ初メテ拡ガッタ当時幕府ハ勤王ノ志士ヲ嚴

刑ニ処ス事ニ因ッテ志士ハ亡ブト信ジタカ一般的ニハ恐レラレタガ志士ノ数ハ少シモ減ゼス遂ニ明治維新トナッタ幕府ノ恐レ且反逆トナシタ志士ノ行動モ今日デハ決シテソウデナイ幕府ニ変ッタ勝利者ノ藩閥政府モ薩長ニ非サレハ人間ニ非サルカノ扱ヒヲシ自由民憲議會開設等ノ声ニ怯エタガ之モ總テ自己中心ノ思想ニ過ギス國家トハ何ノ関係モナカッタ政党モ斯ウシタ薩閥ノ力ヲ削ク時ニコソ必要デアッタガ今デハ薩閥ノ弊其ノモノヲ繰返シテ恰モ幕府ノ末路ニ似ルモノガアル
今日國家ハ非常時ニアルガ原因ハ「ロンドン条約」ダ
而シテ被告ハ國民ヲ眼覚シメタ検事ハ論告ニ「適法ノ方法ナラズ」トシタガ適法ニ之ヲ為スニハ正シキ政治家」ヲ作ル事ナクシテハ絶対ニアリ得ナイ

ガ而モ之ハ百年河清ヲ待ツデアル今日ノ刑法ハ人ヲ殺セトハ言ツテ居ナイ訴訟法ハ起訴セサルコトヲ得ト迄進ンデ居ルカラ各種ノ事情ヲ参酌シテヤツテ欲シイ

2. 秋山弁護人

厂史ヲ大観スルニ現状維持(保守)ト現状ノ打破(進歩)ノ拮抗斗争ニ終始スルヲ見ル我國近代ノ厂史ハ現状維持ノ力強ク且久シカツタガ之ハ徳川ガ自家ヲ保ツ事ヲ國家ノ施政方針トシ此ノ為ニ参勤交代ヲ命シ諸大名ノ富力ヲ減ジ大船ヲ建造スルサイ極刑ニ処ス如キ事ヲナシ以テ日本ノ文化ヲ三世紀モ遅レシメタニ原因スル彼ハ眼中國家ナキノ厂史上最大ノ「大エゴイスト」振リヲ発揮シタ維新ノ華新ニヨツテ國民ハ目覚メタガ

國状ハ既ニ事々ニ至難ノ局面ニ直面シテ居タ二十二年憲法ノ発布ガアッタガ當時英米独佛等ハ既ニ取ルベキハ取リ盡シテ現状維持(満足)ノ状態ニ入ッテ居タ日清日露ハ共ニ現状維持ニ反対スル大和民族ノ心ノ発露トシテ現ハレタガ日露戦勝后ハ徒ニ愉安ノ夢ヲ續ケタ乃木将軍ノ殉死関東大震災モ共ニ力足ラス本件ニヨッテ初メテ國民ノ夢ハ破レタ

犯罪ハ反社會的行為ヲ其根本通則トスルモ本件ハ愛國ノ熱情ノ結果デアリ寧ロ法ノ求ムル処ノモノデアルガ故ニ反社會性モナク従ッテ匡正スヘキ何物モナイ殺人罪ニハ其動機ガ個人的ニナケラネバナラナイ然ルニ本件ハ個人的ニ犬養毅ヲ殺害スヘキ動機ハ全然ナイ當時首相デアレバ誰デモ良イ若槻デモ

鈴木デモ問フ処デハナイ故ニ刑法ノ殺人罪ニ問擬スベキモノデハナイ

本件ハ國民ニ國家非常時ノ認識ヲ與ヘ不安ヲ呼ビ起サシメタガ之ハ眠ツテ居タ者ノ罪デ與ヘタ者ノ罪デハナイ

ドイツニ於ケル一九一九－一九二三年ノ四ケ年ニ於ケル政治的殺人ハ

三七六件　右翼　三五四件（無期一件　他有期）
　　　　　左翼　二二件（死刑一〇件　無期三件　他有期）

デアリ検挙ノ言フ「動機ヲ偏重スヘカラズ」ヨリ見レバ非常ナ差デアルトナシ踵イデ事実論ニ入リ

(一)本件従犯ハ之ヲ肯定シ得ベキヤ否ヤニ関シ

A 三上ノ使用シタルモノカ果シテ本間ノ與ヘタルモノナリヤ

（此点調書ニヨルニ捜査ノ事実ナシ）

B 交付シタルモノニテ三上果シテ発砲シタルカ

C. 発砲ノ弾丸ハ犬養ニ命中シタリヤ
D. 命中シタリトスルモソレガ致命ノ因トナリシヤ
等ノ事實ハ調書ニヨルニ確定シ居ラズ
(二) 又西田ニ対スル分トシテハ
A. 果シテブローニングナリシヤ
B. 西田ヲ打ツ事ハ本間全然知ラズ且之レナラバ本間
ハ渡サナカツタ
以上ニテモ尚従犯ノ責アリト言フ事ガ出来ルカ更ニ頭
山ハ古賀中尉ヨリノ話ヲ承諾シテ本間ニ慫慂シタル
ニ過ギナイガ之ニ従犯ノ共同行為アリトスルナラバ教唆行
為ト云フモノハ想像出来ナイ而モ教唆ハ単ニ夫レノミ
デハ不問デアル被教唆者ノ犯罪成立ヲ必要トスルノ
ミナラズ尚進ンデ単ニ之ニ該當スル犯罪アリト言フノ
ミデハナク教唆行為ニヨリテ影響セラレタ結果デナ

ケレバナラナイ、然ルニ本間ノ心理ヲ見ルニ彼ハ「合法論者」デアリ且主人トモ言フベキ頭山ニ囹圄ノ人タラシムベキ意等ハ毛頭ナク為ニ頭山ヲ叱シテ古賀ニ再ビピストルノ問題ニ関シ頭山ニ依頼スル処ナキヲ通ジ自ラ独身ノ立場ニ立ッテ之ヲ調達シタルモノナルニヨリ頭山ハ全然其責任ナキモノト思フ故ニ無罪ニ願ヒタイ要スルニ其人ト成リ平素家血身辺ヲ思ヒ御名察ヲ願フ

3. 竹内弁護人（本間ノ弁護人）

本件ニ参加スルニ至ッタ本間ノ動機国家信念ニ就テハ裁判所ノ明鑑ニ訴ヘ喋々スルハ却テ世上ニ誤リヲ伝フルナキヤヲ思ヒテ止メル

爆発物取締罰則違反ニ関シテハ其責任アリ有罪已ムヲ得ズト認ム

6.

殺人及殺人未遂幇助ニ就テ見ルニ本件ハ五度其ノ計画ヲ変更シ本間ガ抽象的概括的信念ヲ有シ拳銃ヲ古賀ニ手交シタル当時ノ計画ト決行事實トハ全然其計画ヲ異ニシテ居ル即チ西田犬養ノ殺害ノ計画ハ本間ハ全然不知デアル従テ刑事上ノ責ナシトイフコトニナル

元来本間ハ非合法ノ手段ノ不足シテ居リ事此処ニ至ッタノモ眞ニ心ニナキ行為ノ結果デアルガ故ニ罪アリトシテモ減刑アリタイ彼ハ往年支那各地ニ國家ノ為活躍スル事横川沖ノ如キモノガアリ他日満蒙ニ活躍スルノ日アル時見ルヘキモノアリト思フ斯ル人物ヲ十年ノ長キ間拘束スルモ何ノ利モナイ要スルニ殺人及殺人未遂幇助ノ事実ナキニヨリ爆発物取締罰則違反第五條ニ則リ三年トシ其動機ヲ酌量ノ上減刑シテ欲シイト結ブ

時ニ午后二時四十分裁判長ハ次回ハ二月十六日午前十時ト告ゲ閉廷セリ

右及申(二通)報候也

特高秘二第二三九號

昭和九年一月十六日　警視総監　藤沼庄平

内務大臣　山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判状況ニ関スル件（第四〇報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第四十四公判ハ本日午前十時十分開廷午后二時三十五分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ如クニシテ何等事故無之

記

一、日時　一月十六日　自午前十時 至午后二時三十五分

一、場所　前報ニ仝

高

警保局 9.1.24水 号

四〇四

一、裁判長以下係判検事前報ニ合

一、被告人前報ニ合

一、弁護人

花井忠　伊藤清　卜部喜太郎　鵜沢總明　角田知良

以上五名

一、傍聴人

1. 一般傍聴人　二十一名

2. 特別傍聴人　三名

3. 家族　仝　二名

一、特別傍聴人中ニモ特記スヘキ知名ノ士ナシ

一、法廷内ノ状況

1. 午前九時十分被告橘孝三郎外十九名構内假監到着内外ノ警
戒従前ノ通リ

2. 午前十時五分裁判長以下各係判検事入廷スレハ之ト前后シ

一、裁判長以下係判検事前報ニ同

一、被告人前報ニ同

一、弁護人

花井忠　伊藤清　卜部喜太郎　鵜沢總明　角岡知良

以上五名

一、傍聴人

1、一般傍聴人　二十一名

2、特別傍聴人　三名

3、家族　同　二名

一、特別傍聴人中ニモ特記スヘキ知名ノ士ナシ

一、法廷内ノ状況

1、午前九時十分被告橘孝三郎外十九名構内假監到着内外ノ警戒従前ノ通リ

2、午前十時五分裁判長以下各係判検事入廷スレハ之ト前後シ

テ各弁護人並新聞記者等入廷シ十時十分各被告ノ入廷ヲ待ッテ傍聴人入廷着席シ直チニ開廷トナル

3、開廷劈頭卜部弁護人ハ立ッテ被告頭山秀三ノ為メニ弁論ヲ始メ従犯関係ナシトカ説主張シ無罪論ヲ述ヘテ午前十一時五分終リ

4、次イテ鵜沢弁護人モ前同様頭山被告ニ對シ調書等ヲ朗讀解釈シ本件ニ殺人罪ヲ適用シタ事ハ反対デアリ頭山ハ幇助罪ハ成立セズ依ッテ無罪論ヲ主張シテ午后零時十分終リ休憩シ

5、午后一時四十分再開腫物ノ為メ頭部繃帯セル角岡弁護人ハ被告並本間ノ行為ハ共同従犯ニ非ラズシテ従犯未遂ナリト詳述シ青天白日ノ判決ヲ賜ラン事ヲト述ヘテ全弁論ヲ終リ午后二時三十五分無事閉廷トナレリ

一、公判状況

卜部弁護人（弁論概要）

頭山秀三ニ対スル公訴事実カ古賀中尉ノ従犯トナツテ居リマスカ果シテ従犯トナツテ居リマスカ其ノ事実アリヤ否ヤノ点ニ付述ヘマス天行会ノ主旨ハ剣道ノ練磨ト東亜民族ノ提携ニ在リ被告ハ国家改造ノ憂国ノ士テ此ノ点ハ他ノ被告ニモ譲ラナイ人テ非合法ハ好マナイ者テアリマスカ憂国ノ至情ヨリ期セスシテ古賀中尉ト意気カ投合スル處テアツタ、天下ノ時勢ニ従ツテ生レタ事テ法律家カ彼此言フヘキモノテナイ

本間カ自発的ニ拳銃ヲ調達シ本間ノ単独ノ意志テアリ本間ノ意志ニ仝意シテ頭山カ古賀ニ支給スル事ヲ祈念シタ事ハ陳述シ引用シテモ判リマス

即チ本間カ頭山ニ交代シテヤルト云ツテ居リ本間ノ忠告ニ基イタモノテ意味深ク頭山ハ日比谷胃腸病院ニ入院シテ居リ本間ト共謀ノ点ハ認メラレナイ、又法律上従犯ト見ルヘキ点カナ

イト調書ノ一節ヲ朗讀シ之レヲ説述シ頭山ハ古賀ナ從犯ニ非ラス從ツテ無罪ノ判決アランコトヲ願ヒマスト述ヘテ午前十一時五分終リ

鵜沢弁護人（弁護要旨）

私ハ調書ヲ一讀シテ要シテ此ノ事件ニ対シテ弁護ノ資格アリヤ否ヤヲ疑フモノテアリマスカ多少当ルヘキ事ヲ信シタカラ当ツタ次第テアリマス

只頭山被告ノ関スル限リニ於テ取扱フト云フ程度テ裁判資料ニ願ヒ度イト思ヒマス論告ノ本件ヲ殺人罪ニスルヲ疑フ一人テアリマス

軍人ハ身分アルカ故ニ軽重ヲ向ハス軍刑法ニ向フカ普通人ニ対シテハ殺人罪ヲ適用スルト云フ簡單テアリマスカ同一ノ事件ニ対シテ異リタル法律ノ適用アル場合軍刑法ハ禁個テアルノニ普通人ハ殺人カ目的タル懲役テアリ本件ヲ整理付ケラレ

テ居ル信念ニ基イテ居ルノデアリマセウカ？本件ヲ政治上ノ革新犯ナリヤ道徳上ノ革新犯デアリマセウカ政治上ノ革新犯ハ動機ニ非ラズシテ目的ニ在ルノデアリマス政治道徳宗教観念ニ基イテ整理付ケラレテ居タノデアルト思ヒマス

本件ハ殺人カ目的ニ非ラズ政治革新カ目的デアリ陸海軍被告ノ為メニ犠牲トナツタ者ニ対シテハ非常ニ哀悼ノ念ニ堪ヘナイノデアリマスカ我國建國以来ノ非常時デアリ此ノ世ニ対スル為メノ非常時デアリマス國民ヲ意識セシメ自覚セシムル為メノ唯一ノ道デアツテ國家発展ノ為メニ共ニ犠牲ニナツテ貰ヒ度ヒト云フテ為ツタノカ本件デアリマス

人心ヲ不安ナラシメテ戒厳令ヲ布クノモ一ツノ段階デアリ國家護衛ノ正当防衛デアリマス

被告等ノ精神アル處ヲ裁判ノ上ニ出来ル丈ケ現ハシテ戴キ度イノデアリマス

94

本件ハ内乱罪ニ近イニ依ッテ軍刑法ノ如ク破廉恥罪デナク禁錮刑カ適当ト認メラレマス

頭山ハ政治革正ヲ促シ國民運動ニアッタノデナイカト思ハレマス古賀中尉トノ問題デアリマスカ頭山ハ古賀ノ純情ニ同情シタニ過ギナイト思ヒマス

次ニ古賀ト頭山トノ陳述カ一致シナイ頭山カ千葉ニ拳銃ヤ機関銃カアルト云ッテ居ルモソウデハナク古賀中尉ト共同動作ヲシタト云フ様ニトラレテ居ルカ違ヒマスト古賀ノ調書ノ一節ヲ朗読シ或ハ中村中尉ノ供述ヲ説述シテ私ハ帮助罪ハ成立シナイ無罪デアルト思ヒマス殺人ト云フ事ハ大イナル誤リデアル國家ハ綱紀粛正ト云フ等ノ如キモ期セラレマセウカオ互ニ犠牲ニナッテ國家ヲ救フテハナイカト云フノデアッテ然レハ最モ近イ法案ヲ選ンデ軍刑法ト平衡ヲ取レルト云フ取扱ヒニシ度ヒノデアリマス頭山ハ無罪ニ裁判ノ上ニ是正アラ

ンニトヲ願ヒマスト述ヘテ終リ時ニ午后零時十分休憩

午后一時四十分再開

角岡弁護人（弁論概要）

私ハ頭山被告ノ弁論ニ次イテ本間被告ニ就イテモ申上ケマス

第一事實認定ノ点テアリ頭山ハ本間ト共同シテ為サレタトシ

第二法律適用ノ点テアリマスカ私ハ頭山ハ本間被告ト共犯事

實ナシトスルモノテアリマス

従犯ニハ

ハ單独従犯　2、共同従犯　3、従犯教唆　4、従犯ノ従犯

トアリマスカ検察官ハ共同従犯トナシ亦正犯ヲ以テ起訴サレ

テ居リマス人カ判例ヨリ見ルモ當リマセン

頭山ハ第一件ニ届シナイノハ明瞭テアリ原告官ノ適用サレタ

第二件ニ就テ頭山ハ断ワテ本間カ引受ケテ拳銃ヲ古賀ニ提供

シテ居リ本間ハ恩師頭山翁ニ対シテ迷惑ヲ及ボス事ヲ虞レテ

本間ハ誠心誠意以テ秀三君ヲ叱リ古賀中村トハ秀三君ニ代ッテ本間カ一切ノ交渉ニ当ッテ居リマス随テ従犯ノ教唆ニ非ラサルヤト疑ハレルノデアリマスカ第三ノ従犯ニモ該当シナイト思ヒマス結局頭山ノ行為ハ従犯ノ未遂テアリマシテ無罪ノ判決ヲ賜ルヘキモノテアルト思ヒマス

検察官ノ論告ニ依ル刑法六十五條ノ解釈ニモ疑義ノ点カアリ今一七メ條ノ共同正犯テナイト出テ来ルノテアリ泉二博士ノ説ニ依ルモ従犯トナリマス之レニ詳説シテアリマストコ中央大学新聞レヲ提供シ

ス頭山ノ恐喝ニ就テモ従犯ト思フノテアリマスカラ両件共無罪ヲ賜リ度ヒト思ヒマス

或ヒハ大川氏ノ如キハ佐久間象山先生ニモ比スヘキ人テ一代ニ二三人ト出ナイ一人者テアリマス然ルニ十年モ十五年モ獄中ニ置ク事ハ日本ノ文明ヲ阻害スル事トナリマス

無罪ハ確信スルモ明瞭アラン事ヲ願ヒマス

陸軍々法会議ニ提出シタ一葉ノ写真テアルト満洲事変当時発見セル受領書ニ付如何ニ特権階級財閥等ノ腐敗シ居リタルカヲ立証ニ余リアルト論及シ

国家ヲ良クシ度ヒトナシタノカ本件テアリ具体的正義ノ場合法ハ死ニテ居ルノテアリマス

不罰ニ罰スル様青天白日ノ判決ヲ賜ラン事ヲ願ヒマス

ト述ヘテ午后二時三十五分終リ次回ハ一月十八日午前十時ヨリ開廷ヲ宣シテ無事閉廷トナレリ

右及申（通）報候也

四一四

寫

特高秘、第二四〇號
昭和九年一月十八日
警視総監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿
各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判狀況ノ件
（第四一報）

本日東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第四十一回公判狀況左記ノ通リ

記

一、日時 一月十八日 自午前十時七分 至午后三時卅八分

場所 前回ニ同じ

一、裁判長以下係判検事　仝

一、被告　仝

一、弁護人（本日出席者）
奥山八郎、太田耕造、山本唯次
沼田照義、栗田弘（以上五名）

一、傍聴者
特別傍聴人　四名
一般　五七名（内東京女子大生二十二名）
家族、近親者　二名

一、一般状況
被告ノ押送並法廷内外ノ警戒状況其他従前ノ通リニシテ何等事故ナシ

二、公判状況
ノ午前十時七分開廷劈頭奥山弁護士ハ

本間憲一郎ノ爲ニ酌量減刑論ヲ述ヘ仝十時
四十五分終了
2.引續キ太田弁護士ハ仝杤ノ本間被告ニツイ
テ弁論ヲ爲シ仝十一時五十分終了一時間
二十分ノ休憩ニ入ル
3.午後一時十分再開山本弁護士ノ弁論ニ移
リ本間被告ノ爲ニ酌量減刑論ヲ爲シ仝
二時二十分終了
4.引續キ小旧田弁護士ノ弁論ニ入リ橘孝三郎
以下愛郷塾関係全部並本間被告ノ爲ニ
論ジ仝三時終了
5.引續キ栗田弁護士ノ弁論ニ移リ無罪論
ヲ主張シテ仝三時二十分終了
6.午後二時四十分松浦被告ハ脳貧血ノ爲退

廷シタリ

ク、次回ハ来ル本月二十日午前十時開廷ノ筈

三、奥山弁護士ノ弁論大要

本間被告ノ弁護ヲシタイト冒頭シ満洲国ヨリノ七三五名ノ嘆願書ヲ提出シ目下柴山塾ニ世話ニナッテ居ル蒙古人兄弟ヨリノ嘆願書ヲ朗読シ友人本間氏ノ為ニ主トシテ法律論ノミヲ申シ上ゲタイト前提シ本件ハ陸海民間ガ統一審理ヲ受ケルカ或ハ内乱罪ニ依リ審理サルヽナラバ兎モ角現在ノ如キ審理状態ニ於テハ之ヲ当然ニツニ区分スベキデアル、夫ハ何レガ主犯デアリ何レガ従犯デアルカノ区別ガナク本件ニ於テハ本間ノ従犯干係ハ成立シナイ池松氏ガ拳銃ヲ持ッ

タガ夫レガ本間ヨリ出デタモノデアルコトノ何等證據ガナク本間被告ノ行為ハ民間側ト何等ノ干係ハナイト論ジ三上中尉ノ行動ニヨルノ外軍部トモ總犯干係ハナイノデアル、殊ニ古賀ニ對シ暴擧ヲ戒メ自己ノカノ及バザルヲ知リ滿洲ニ走リ制止シ得ルカヲ藉リテ注意シタル点ヲ御考慮願フナラバ爆發物取締罰則第五條ヲ適用サレルノガ至當デアルト斷ジ転ジテ検事ノ論告ニ言及シ御宸襟ヲ惱マシ奉リタル事件ナルガ故ニ何レモ重ク罰スル必要ガアルトノ御論告デアルガ弁護人ノ洞察シ奉ル処ニ依レバ陛下ニ於カセラレテハ被告等ノ眞意ガ御分リニナツタトノ御言葉ヲ賜ル

コトカ出来ルト拝察スルモノテアル何卒御寛大ノ御
処刑カオ願ヒシタイト結ブ

四、太田弁護士ノ弁論大要

本間ノ為メニト冒頭シ先日徳富公翁カ特別
弁護ニ起タレタコトニ付テ大ナル感激ヲ享ケル
モノテアル　夫レハ本間氏ノ為メニ金子公翁ヲ想ハ
ザルヲ得ナイ　若シ公翁ニシテ御在世ナラハ本間
ノ為メニ特別弁護ニ起タレタテアロウコトヲ
遺憾ニ思フト述ヘ第一動機　第二性格　第三
思想観、第四國事ニ尽シタル事実　第五法律
論ノ五項目ニ分ケテ述ヘテ見タイト前提シ古賀
トノ道徳的約束ヲ果シタモノニ過キナイト論シ
本間ノ祖父カ贈位セラレタモノデアリ其ノ血カ流
レテ居ル　彼ハ自然人テアル一面ニ於テ鍛錬サレ

修養ヲ積ンテ居ルト人格ニ付テ賞揚シ西伯利亜出兵、南京事件等幾多ノ喋報勤務ニ従事シ其ノ支那語ノ巧ミナル点ハ洵ニ天才的テアルト述ヘ今ヤ露満国境風雲急ナルノ時一日モ早ク彼等ノ活躍ヲ希望シテ止マナイモノテアルト論シ法律論ニ論及シ非常時日本ニ於ケル少壮気分ノ現ハレテアル本件ヲ時勢ノ順應性ニヨリ御考慮ニナリ法律ノ適用ヲ誤ラサランコトヲ望ムト述ヘ検事ハ刑事政策上大審院ノ判例ヲ採ラレタカ私ハ反対テアルト反駁シ露西亜皇太子遭難事件ヲ論シ國家重キカ國法重キカニ付テ法律ハ國体ノ意志ニ副フ様解釈スヘキテアリ共産党員等ト本件被告ノ如キ結果ニ於テ同様法律ニ觸ルヽト雖モ之レヲ同一視スル

4

コトハ出来ナイノデアル然ルニ昨今左右両翼ヲ取締ルト云フカ如キコトヲ聞クカ斯ノ如キ「ナンセンス」ハナイト批難シ独乙ノ「ナチス」ヲ述ベロンドン条約ヲ誤リ國家非常時ニ於テ國ヲ愛スルノ餘リ出テタル本件ニ付テハ法律ハ之レヲ國体意志ニ依リ解釈シ法ノ权威ヲ高カラシメラレムコトヲ望ムト述ヘテ終了。

五、山本弁護士ノ弁論大要。

本間被告ノ為メト冒頭シ裁判長並陪席判事ニ対シ感謝ノ辞ヲ述ヘ検事ノ論告ニ論及シ堂々タルモノデアリ襟ヲ正サヽルヲ得ナイノデアルカ其ノ御求刑タルヤ陸海軍ニ比シ餘リニ苛酷ニ過キルモノデアルコトヲ遺憾ニ思フト論難シ本件発生当時ノ社会状勢ニ付テト題シ内外共ニ

非常時ニアルソツトノ検事ノ論告ヲ引用シ大化ノ改新ヲ論シ政党政治ノ弊害ヨリ統帥権干犯ヲ語リ更ニ論告中ノ大審院判例ノ引用ハ刑事政策上為サレタモノト思フカ之レヲ以テ抜本塞源ノ策ナリト考ヘルカ如キ厳刑ヲ以テ予防策トシテ得々タルカ如キ我国民性ニハ絶対相容レナイモノテアルト論断シ轉シテ本間被告ノ行為ニ言及シ何等ノ干係ハナイト古賀中村ノ予審調書ノ一節ヲ読上ケ拳銃携帯取締ニハ触ル、テアロウカ無罪テアルト主張シタイカ当裁判所独自ノ立場ニ於テ酌量減刑ノ御判決ヲ願シテ已マナイモノテアルト結フ

六、沼田弁護士ノ弁論大要

私ハ橘孝三郎以下愛郷塾干係全部並従

犯ニ於テ本間被告ノ為メニ弁論ヲ試ミタイト冒
頭シ財團ノ社會事業ニ対スル寄附金額ノ調
査表ヲ朗讀シ政府ノ農村対策ニ付テ本件決行前ハ政
府ハ主トシテ都會ヲ主トスル失業問題ニ重キヲ置イ
タカ決行後ハ農村対策ニ努力スル様ニナツタ之ハ被告
諸君ノオ蔭ニ因ルモノテアルト述ヘ本件ニ依リ農村ハ
余程恩恵ヲ受ケテ居リ明治十年水戸市ニ於ケル橋
本治左衛門ト仝様デアルト農民ハ感謝シテ居ルト説
キ日本精神ノ前ニハ憲法違反ノ如キ難訳物ハ何等
ノ價値カナイ國家ノ非常時ニ起シタル本件ノ如キ之
即チ日本精神ノ表現デアルト論シ本間被告ニ付テ
予審調書ヲ讀ミ上ゲ本間ハ仝志トシテ扱ハレテ居ナカ
ツタモノデアリ本間ノ眞意ハ恩師タル頭山翁ノ御子
息ヲ護ルヘク東洋的英雄心理ヨリ自ラ買ツテ出タ

モノテアリ人ヲ殺スヘク拳銃ヲ渡シタモノデハナイ其処ニ意志ノ連絡ハナク当然無罪テアルト断シ最後ニ全部ノ被告ニ付テ一言シタイノハ日本精神ノ花ト云ハレタ爆弾三勇士以上ノ悲壮ナル決意カアッタモノテアリ此ノ点ニ付テ御考慮ヲ望ムト述ヘテ終了、

七、栗田弁護士ノ弁論大要

去ル昭和七年五月十五日午后五時三十五分私ハ家族ト共ニ貴族院ノ前ヲ通リマスト私ノ子供カ紙片ニ十枚位撒イタモノヲ拾ッタカ夫レハ海軍将校等カ撒イタモノテアッタ

私ハ今尚其ノ印象カ深イモノカアルト冒頭シ政党政治ノ弊害ヲ挙ケテ論難シ本間ノ弁論ニ移リ連絡ノ意志カナカッタモノテアリ、無罪ノ御判決ヲ頂キタイト簡単ニ述ヘテ終了、

右及申（通）報候也.

特高秘第二六六號

昭和九年一月二十日

警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判状況ニ關スル件（第四十二報結審）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第四十二回（結審）公判ハ本日午前九時三十五分開廷午後四時五十分閉廷セルカ其ノ状況左記ノ如クニ有之

記

四二四

一日時　一月二十日　自午前九時三十五分 至午後四時五十分
一場所　前報仝断
一裁判長以下係判検事　前仝断　但シ吉江検事欠席
一被告人　前報仝断
一辯護人（本日出席者）
今村力三郎　寺崎勝治　福田房亀　稲本錠之助
宇都宮良久　石川浅　林逸郎　亀山要
柏木五百次郎　竹内金太郎　植田亥之吉　栗原寧之助
深作貞治　藤沼光　秋山高三郎　以上十五名
一傍聴人
1、一般傍聴人　三五名
2、特別　仝　一五名
3、家族　仝　三名

一、一般状況

警戒其他従前ノ通リニシテ異状ナシ

一、公判状況

1 午前九時三十五分開廷ト共ニ今村弁護人起ツテ大川被告ノ為メニ直接行動ニ因ル非合法主義者ニ非サル旨ヲ力説騒擾罪トシテ處分セラレムコトヲ主張シテ午前十一時十五分終了ス

2 引續キ寺崎弁護人起ツテ仝シク大川被告ノ為メニ反乱罪ノ正犯説ヲ主張軽罰ヲ希望シテ午前十一時四十五分終了一時休憩トナル

3 午後一時五分再開福田弁護人仝シク大川被告ノ為メ起ツテ其ノ私的交友関係ヨリ被告ノ社會的地位ニ言及軽罰ノ希望シテ午後一

時二十五分終了ス
4、次ニ稲本弁護人仝ジク大川被告ノ為ニ騒擾
罪説ヲ主張シ非合法主義者ニ非ザル旨ヲ
強調シテ午後一時五十分終了、再ビ一時休憩トナル、
5、午後三時十五分再開宇都宮弁護人起ッテ仝様大
川被告ノ為メニ三月事件乃至十月事件ト本件ト
ハ無関係ニ付明鏡止水ノ御名断アラム事ヲ望ムトテ
午後四時十五分終了 之レヲ以テ裁判長ハ本件ニ関
スル弁論終結ノ旨ヲ宣シ各被告ニ對シ補足陳述
ノ有無ヲ質ス、
6、因ッテ橘被告ハ別冊トシテ上申書ヲ提出スルトコロ
アリ池松、塙各被告ヨリ一言補足陳述シ右終ッテ
亀山弁護人ヨリ各弁護人ヲ代表シ裁判長以下各関
係者ニ感謝ノ挨拶ヲ述ヘ午後四時五十分閉廷トナ

ル判決日時ハ追ツテ通知アル筈、
ワ右亀山弁護人ノ挨拶中冗長ニ亘ル嫌アリタルヲ以テ一般傍聴席ニ在リタル「神武會」員石井実雄当三十一年仝ジク大石茂当二十六年ノ両名ハ之レヲ揶揄スルガ如キ不謹慎ノ言辞ヲ弄シタルニ因リ閉廷ヲ待ツテ構内警戒本部ニ同行シ一應注意ヲ促シ将来ヲ戒メテ直チニ釈放セリ、

一、公判ノ内容、

(イ) 今井弁護人

検事ハ大川被告ニ対シテハ法理上ハ従犯ナレ共其ノ性質ハ正犯ト仝様ナリト仰セラレテ居ルケレ共夫レハ記録ノ何処ヲ探シテモ発見スルコトハ出来ナイ処デアル而シテ大川被告ハ非合法手段ニ因ル直接行動的國家改革論者デアリ多年其ノ実現ニ努力シテ相当ノ共鳴者ヲ得タルカ

如ク仰セラレテ居ルガ事實ハ決シテ左様デハ無イノデアル寧ロ海軍側ノ藤井斉、古賀清志等ノ思想ニ共鳴シタモノデアッテ決シテ非合法的直接行動主義者デモ何デモ無イ 然ラバ何故ニ古賀等ニ拳銃ヤ資金ヲ手交シタカト云ヘバ夫レハ思想ト行為トヲ混同シタル見解デアッテ大西郷ガ薩南ノ健児ニ一身ヲ任セ切ッテ彼等ト運命ヲ共ニシタノヤ或ハ天野屋利兵衛ガ大石カラ禁制ノ武器調達ヲ引受ケタ気持ト同様デアッテ其処ハ所謂男児ノ意気デアリ面目カラテ非合法ノ一事ノミヲ以テ断スベキモノデハ無ク三月事件乃至十月事件ニ対シテハ被告ハ其ノ遠因ヲ為シタリトシテ検事ハ重刑ヲ求メラレテ居ルガ此ノ両事件ハ恐ラク裁判官諸公ト雖モ其ノ眞相ハ明判リデハ無カロウト思ハレルシ且ツ本件デハ一人トシテ起訴サレタ者ハ無イ唯大川被告ニ対シテノミ重刑ヲ課セラレムトスルノハ誠ニ不可

解セト言ハサルヲ得ナイ処テアル大川ハ反乱罪トシテノ従犯ニシテ殺人罪トシテノ従犯デハ無イ、明治四十年代ノ錦町署管内ニ於ケル赤旗事件ハ幸徳秋水事件ノ適用トナリ、虎ノ門事件ハ亦幸徳事件ニ起因シテ居ルコトヲ考ヘレバ刑ノ量定ニ際シテハ深甚ナル御考慮ヲ煩シ度イ処テアル

(ロ) 寺崎弁護人

私ハ大川被告ニ對スル従犯論ニ就イテ申述ヘタイカ其ノ動機ニ就テハ一点ノ私心無ク被告等ノ行為ハ善也ト断セサルヲ得ナイ処テアリ結果カラ観テモ亦社會的ニ善良ナル影響ヲ與ヘテ居ルモノナレバ之レ亦善行セト断定セネバナラヌ、大川被告ニ対スル犯罪ハ拳銃ト資金調達ニ因ッテ従犯トシテ取扱ハレテ居ルケレ共私ハ被告等ノ行為ハ反乱罪ノ共犯ト観ルヘキテアルト思フモノテ

アル大川ハ決シテ非合法ヲ標榜スル危険ナル実行家テハ無クシテ寧ロ精神的運動家ト称スベキ者ナレバ從ツテ厳刑重罰ヲ以テ臨ムベキモノテハ無イト信スル次第デアル

(ハ) 福田弁護人

私ハ先般検事ノ述ヘラレタル御論告ニハドウシテモ腑ニ落チヌ点ヲ感スルモノテアルカ夫レハ大川被告ノ思想カ年来非合法的テアツタトセラル、点テアル。私ハ大川被告トハ熊本五高時代カラノ学友テアルカ彼レハ大学寮時代カラ内務省警察講習所ニ於テ全國カラ集ツタル優秀ナル警察官ノ講習生ニ對シテ安岡正得ト共ニ我カ日本思想ノ講義ヲシテ居タ程ノ学究テ決シテ非合法主義ヲ奉スル様ナ男テハナイ此ノ被告ニ対シ検事ハ十五年ヲ求刑セラル、トハ私ハ其ノ裏ニハ一昨年

ノ議會デ秘密内容トシテ小山法相カ話サレタ事件
ハ首魁大川ヲ逮捕以来事件ハズン〳〵進展シタト云
タノ言葉カ原因ヲナシテ居ルノデハナカロウカト見ルノデ
アルカ彼ハ首魁デモ何デモナイ、私ハ大川ノ為人ヲヨク知
ッテ居ルカ彼ハ学生時代カラ何役ニ就ケ中心指導的ナ
人物デアリ偉材タッタモノテアル、目明キハヨク尊フケ
レ共盲ハ容易ニ轉フモノテハナイ、願ハクハ大川ノ社会
的存在ナル点ヲ御考慮アッテ御名断アラムコトヲ御
願ヒシテ止マヌ次第テアル、

稲本弁護人

(二)

私ハ本件ハ騒擾罪ヲ以テ論スルコトカ最モ妥当セト
信スルモノテアルカ検事ハ本件ハ地方ノ静謐ヲ害シタル
モノテハ無イトノ理由ノ下ニ騒擾罪ニ非ストノ御言葉ノ様
テアッタ乍併現行刑法ハ騒擾罪ニハ静謐ヲ害スルコト

ヲ絶対條件トハセヌト云フコトハ大審院ノ判例モアリ況ンヤ被告等ノ行為カ地方ノ静謐ヲ害シナカッタトハ思ハレヌ処テアル。殊ニ被告等ハ一人トシテ其ノ法律上ノ責任ヲ免レ様トスル様ナ者ハ無ク寧ロ喜ンデ法ノ命スル処ニ服シ様トスルモノ許リテアル　如斯志士ヲ無期トカ十五年トカノ長期ニ亘リ拘束スル必要カ何処ニアルダロウカ、又反対ニ軽罰ニ処シタカラト言ッテ之レヲ模倣スル様ナ者ハ恐ラクアルマイト思フ。大川ハ決シテ直接行動主義者デハ無ク國家革新運動ニ対スル大川ノ地位ハ厳然タル実カヲ有シテ居リ且ツ其ノ日本精神ノ研究ニ到ッテハ蓋シ古今ニ絶セリト云フヘキモノカアル　其ノ何処ヲ見テモ非合法的傾向ハ認メラレス唯々ヨリ住ミ良イ日本ニ改造シタイト云フニ外ナラヌ　之レニ対シ厳罰ヲ以テ臨ムト云フノハ誤リモ甚シイト云ハネハナラヌ、鳩山文相ハ本件ヲ評シテ「五

一五事件ノ政治家ト國民ノ精神トカピッタリト結ビ付ノ
ニ居ナカッタカラダト云ッテ居ラレル程デ國民ハ今ヤ偉人
ノ出現ヲ喝仰シテ居ルノデアル而シテ其ノ裡面ニハ当然大ナ
ル変革ヲ予想シテ居ル此処ニ於テ被告等ノ投シタ一石
ハ其ノ影響スル処大所高所ヨリ観テ誠ニ喜ブベキ効
果カアッタコトハ信シテ疑ヒナイ処ナレハ願ハクハ國民納
得スル如キ御名断アラムコトヲ希望シテ私ノ弁論ヲ
終ル次第デアル。

(ホ) 宇都宮弁護人

私ハ木内検事ノ御論告ニ対シ簡単ニ反駁ヲ試ミ
タイト思フノデアルカ検事ハ其ノ前段ニ於テハ國家
非常時ナルコトヲ認メラレテ居リ乍ラ後段ニ於テハ
左ニ非ズトノ御論告デ此ノ点ハ将ニ被告ヲ侮辱シタ
モノデアリ然ラサレハ実ニ矛盾ナル御論告ト云ハサルヲ得

ナイ迄テアル又検事ハ大川被告ニ對シテハ法理上デハハッキリト従犯ナリト認定サレテ居リ乍ラ刑ノ量ニニ当ッテハ實質ヨリ以上ノ求刑ヲナサレテ居ル私ハ之レ或ル政治的意味カ含マレテ居ルノテハ無カロウカトサヘ思ハサルヲ得ナイ 大川カ古賀中尉等ニ拳銃ヤ資金ヲ與ヘタノハ合氏ノ直情径行ノ性質ノ然ラシメタル迄テアッテ強ヒテ被告ヲ罰セネバナラヌトスレバ正ニ此ノ性格ノ一点ニ在ルト思フノテアル 三月事件乃至ハ十月事件ハ被告大川カ其ノ中心的存在テアッタト云フ点ニ就テハ当法廷ニ於テ既ニ御審理ニナッタ迄テアルカ私ハ此ノ両事件ヲ本件ニ結ヒ附ケテノ御裁断ニハドウシテモ承服スルコトハ出来ナイノテアル十月事件ニ対シテハ被告等ハ井上日召氏ヲ通シテ関係カアッタニ過ギズ井上氏ハ亦西田税氏ヲ通シテ知ッテ居タ丈ケノ問題テ

アル而シテ此ノ両事件ハ其ノ内容ハハッキリセヌモノデアッテ所謂風声鶴唳ヨリ出テタルモノト称スヘキテアリ要スルニ大川被告カ共同正犯ニ比スヘキ罪カアルト云フノハ三月事件十月事件ヲ結ビ附ケラレタル結果テアレハ願ハクハ明鏡止水ノ御気持ヲ以テ御裁断アラムコトヲ切望シテ止マヌ次第テアル

以上ヲ以テ本件ニ対スル弁護人ノ弁論ヲ終了 茲ニ因リ裁判長ハ各被告ニ対シ補足陳述ノ有無ヲ尋ネセハ橘被告ハ別冊トシテ上申書ヲ提出スルトコロアリ、池松、塙両被告ヨリ左記ノ如キ要旨ノ陳述ヲ為ス。

池 松 被 告 人

唯一件申上ケテ置キ度イコトカアルカ夫レハ本件カ大川周明ノ思想カ中心トナッテ居ルカノ様ニ考ヘラレテ居ルヤノ点テアッテ事実ハ決シテ左ニ非ス陸海軍側テハ

菅波中尉ヤ北一輝等ノ思想ヨリ出テタルモノデアリ大川ノ思想トハ何等直接ノ関係ハ無カッタモノデアル従ッテ本件ハ大川ノ思想ニ因ッテ為サレタモノデハ無ク只大川トハ拳銃ヤ軍資金ノ関係カラ利用セントシタコトハ明瞭デアルト云フコトヲ茲ニ明確ニシテ置クモノデアル

塙　被告人

我々ハ変電所襲撃ニ従事シタ同志六人トシテハ結果ハ不成功ニ終リ初期ノ目的ハ達シ得ナカッタト雖其ノ気持ハ塾長始メ他ノ同志ト何等撰ブ処ハ無カッタモノデアルカラ何卒塾長同様厳罰ニ処セラレムコトヲ同志六人ニ代リ御願致ス次第デアル。

右ノ如クニシテ茲ニ裁判長ハ本件ニ関スル公判終結ノ旨ヲ告ゲ判決ハ後日追テ通知スヘキコトヲ宣スレハ最後ニ亀山弁護人起ッテ大要左ノ如キ感謝ノ挨拶ヲ述フル所アリ。

亀山弁護人

裁判長以下皆様方ニ一言感謝ノ御挨拶ヲ申述ヘタイト思フカ本件ニ対スル御審理振リヲ見レハ誠ニ被告等ニ御同情アリ且ツ公明正大ナル御審理振リテアッタコトヲ確信スルモノテアルカ殊ニ被告ニ対シ上申書ヲ提出セシメラレタリ陳述ニ当ツテハ水ヲ飲マセラレタリ過去八ヶ月ノ永キニ亘ツテ何レノ公判ト雖時間ヲ励行セラレテ遣ハス加之六十余名ノ弁護人ト裁判官トノ間ニ何等ノ問題モ起ラス圓満裡ニ終始シテ今日終結ヲ見ルニ到ツタコトハ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ処テアル唯木内検察官トハ異見ヲ有スルモノテアルコトハ一言申上ケテ置キ度イ処テアルカ夫レテモ尚被告等ノ健康保持ニ就イテ深甚ノ御考慮ヲ煩ハシ遇スルニ相当ノ途ヲ以テセラレタコトハ深ク感謝スル次第テアル或ハ又本件ノ公判

準備ニ対スル宇野裁判長ノ御厚意アル御取計ヒ全國百萬ノ同志ヨリノ減刑嘆願書ニ現ハサレタル熱情引イテハ日々ノ公判ノ状況ヲ全國民ノ為ニ速報スヘク努カセラレタル新聞記者諸君ノ奮闘何レモ茲ニ改メテ感謝ノ意ヲ表シ公明正大ナル御判決アラムコトヲ御願ヒテ今簡單御挨拶ト致ス次第テアル

以上

右及申(通)報候也

（寫）

特高秘第四九一號

昭和九年二月三日

警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側公判状況ニ關スル件（第四十三報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第四十三回（判決）公判ハ午前十時十三分開廷午前十一時五十五分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ如クニシテ何等事故無之

四三四

記

一　日時　二月三日　自午前十時十三分　至午前十一時五十五分

一　場所　前報令断

一　係判検事　前報令断

一　被告人　橘孝三郎　外十九名全部出席

一　弁護人（本日出席者）

石川浅　稲川龍雄　池田操　池田謙太郎

岩松孝雄　花井忠　星野民雄　岡田庄作

奥山八郎　若井孝太郎　亀山要　柏木五百次郎

金石一雄　横田隼雄　竹内金太郎　植田亥之吉

前川盈一郎　深作貞治　藤沼光　寺崎勝治

栗田弘　木村半之助　福田虎亀　栗原宰之助

宮下巌　平松市蔵　杉浦武雄　角岡知良

鈴木多人　杉浦博

（以上三十名）

一傍聴人（満員）

1、一般傍聴人　六〇名
2、特別　仝　六九名
3、家族　仝　四二名

一特別傍聴人中主ナルモノ

近衛師団軍法会議	法務官	津村幹三
第一師団　仝	法務官	浅野清名
	海軍大佐	阿部勝雄
	仝　中佐	小川貫璽
	豫審判事	大野正太郎
	判事	齋藤二郎
	代議士	風見章
	文部省嘱託	奥村正爾

一法廷内ノ状況

1 午前九時十五分被告橘孝三郎外十九名
全部構内假監到着内外ノ警戒從前ノ通
2 午前十時裁判長以下各判検事入廷之レト
前後シテ各弁護人並ニ新聞記者等入廷シ
仝十時五分各被告ノ入廷ヲ待ツテ傍聴人入
廷着席シ仝十三分開廷トナル
3 開廷トナルヤ各新聞社等ノ寫眞ノ撮影ヲ許
シ数回ニ亘リ撮影セリ
4 開廷劈頭直チニ神垣裁判長ハ全被告人ヲ
起立セシメ型ノ如ク點呼ノ上全被告人ニ對シ
殺人及ビ殺人未遂、爆發物取締罰則違反
並ニ仝幇助罪ニヨリ判決ヲ言渡ス旨ヲ宣
シ再ビ仝被告人ヲ着席セシメテ別記判決
要旨ヲ讀ミ聞カセ、次ニ證據説明ニ入リ證

據トシテハ當法廷ニ於ケル各被告ノ供述及ビ
證據調其他青瀬ニ依ツテ明瞭ナリト宣シ
タル後別項ノ如ク判決シ言渡セリ
分更ニ本件ニヨリ證據トシテ押收セル拳銃
及手榴彈六個ハ之レヲ没收シ本件ニ於ケル
訴訟費用ハ被告側ノ負擔トシ此ノ判決ニ
不服アル場合ハ七日中ニ東京控訴院ヘ控訴
ガ出來ル旨尚ホ本件ハ爆發物取締罰則ト
殺人トノ併合罪ナレバ禁錮刑ニスル事ハ出
來ナイ旨被告等ハ早ク假出獄ノ恩典ニ浴シ
テ國家ノ為メニ盡サレル様ニセヨト申渡シテ
午前十一時五十五分終始静粛ニシテ無事
閉廷トナレリ

判決

被告人氏名	年令	言渡	求刑
橘孝三郎	四二	無期懲役	無期懲役
後藤圀彦	三三	懲役十五年 未決拘留四百日算入	懲役十五年
林正三	四二	〃仝 十二年	仝 十二年
矢吹正吾	二三	〃仝 七年	仝 十年
横須賀喜久江	二三	〃仝 七年	仝 十年
塙五百枝	二三	〃仝 七年	仝 八年
大貫明幹	二五	〃仝 七年	仝 十年
小室力也	二三	〃仝 五年	仝 七年
春田信義	二八	〃仝 三年六月	仝 七年
奥田秀夫	二五	〃仝 十二年	仝 十五年
池松武志	二五	〃仝 十五年	仝 十五年
高根沢與一	二四	〃仝 三年六日	仝 七年
杉浦孝	二六	〃仝 三年六月	仝 七年

堀川秀雄	二九	懲役八年 未決拘留四百日算入	懲役十年
照沼操	二五	〃 仝五年	仝十年
黒澤金吉	二七	〃 仝五年	仝十年
川崎長光	二四	〃 仝十二年	無期懲役
大川周明	四九	〃 仝十五年	懲役十五年
頭山秀三	二八	仝八年 未決拘留三百日算入	仝十年
本間憲一郎		〃 仝十年	仝十年

右及申（通）報候也

被告人橋孝三郎外十九名爆發物取締罰則違反等

被告事件判決要旨

（主文證據說明法律適用省畧）

判決

本籍　水戸市馬口労町二千二百八番地
住居　同市新原町三千三十九番地
農業　橋　孝三郎
当　四十二年

本籍　茨城縣那珂郡五臺村大字東木倉八百十八番地
住居　水戸市新原町三千三十九番地
農業　後藤圀彦
当　三十三年

本籍　水戸市新原町三千三十九番地
住居　同所
農業　林　正三
当　四十二年

本籍　茨城縣久慈郡世矢村大字小目千八百二十七番地

一

住居　水戸市新原町三千三十九番地

農業

矢吹省吾

當二十三年

本籍　茨城縣東茨城郡上大野村大字中大野十九番地

住居　同所

農業

横須賀喜久雄

當二十三年

本籍　同縣西茨城郡笠間町大字笠間千三百六十二番地ノ四

住居　水戸市新原町三千三十九番地

農業

塙五百枝

當二十三年

本籍　茨城縣那珂郡勝田村武田五百三十九番地

住居　水戸市新原町三千三十九番地

農業

大貫明幹

6

本籍　茨城縣那珂郡大賀村大字岩崎三百十九番地
住居　水戸市新原町三千三十九番地
農業　小室力也
當二十三年

本籍　茨城縣西茨城郡笠間町大字笠間千二百九番地
住居　同所
無職　春田信義
當二十八年

本籍　廣島縣安藝郡音戸町大字音戸六千九百七十三番地ノ二
住居　東京市中野区新井四百五十三番地　林新太郎方
無職　奥田秀夫
當二十五年

本籍　鹿児島縣出水郡出水町上鯖淵百三十九番戸
住居　東京市澁谷區神宮通り二丁目三十番地　東條輝方

ク

右頭山秀三、本間憲一郎ニ對スル爆發物取締罰則違反殺人及殺人未遂並恐喝被告事件ニ付當裁判所ヘ検事木内曽益、吉江知養関與ノ上審理ヲ遂ケ判決ヲ為スコト左ノ如シ

理由（要旨）

第一

被告人橘孝三郎ハ明治四十五年茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シ大正元年九月第一高等學校ニ入學シ大正四年三月同校第三學年ヲ中途退学シテ當時茨城縣東茨城郡常盤村新立三千三十九番地（現在水戸市新原町三千三十九番地）ニ皈農シ同年秋頃ヨリ同所ニ於テ自ラ農場ヲ経営シ人ハ大地ヲ離レテ生存シ得サルカ故ニ我カ國建國ノ基本ハ大地即チ農村ニシテ國民ハ總テ自他一切ノ為ニ真心ヲ捧ケ相互愛ノ下ニ生キ各自其天職使命ノ在ル所ニ従ヒ勤労ノ限リヲ盡スヘキモノト為シ自ラ之ヲ大地主義兄弟主義勤労主義ト称シ右三主義ノ在ル所即チ人ノ故郷ナリ人ハ其ノ故郷ヲ愛スヘキモノトシテ之ヲ愛郷主義ト名付ケ之ヲ信條トシテ身ヲ提シテ農場経営ニ當リ居タルカ軈テ同被告人ノ兄妹等モ右農場ニ来リ投スルニ至リ茲ニ所謂兄弟村農場ノ完成ヲ見タリ其

前後ヲ通シ同被告人ハ挙世滔々トシテ西洋唯物文明ニ酔ヒ愛國同胞精神ヲ喪失シ殊ニ農村ニ於テハ眞ノ農民存在セサルノ現況ヲ憂ヘ農村啓蒙團体ノ結成ヲ希望シ居タル折柄偶々昭和四年中同被告人ノ右趣旨ニ賛同スル青年在リテ茲ニ前示農場ヲ中心トシタル愛郷会ヲ創立シ前示愛郷主義ヲ鼓吹シテ農村啓蒙ニ努メ更ニ其ノ頃我カ國ハ農業ヲ以テ建國ノ基礎トセルモノナルコトヲ惟ヒ前記愛郷主義ニ依リ身ヲ以テ農村子弟ヲ教育指導シ眞ノ農民ヲ養成セムト欲シ昭和六年四月十五日前示農場内ニ自営的農村勤労学校愛郷塾ヲ設置シ自ラ其塾長トシテ親シク農村子弟ノ薫育ニ没頭シ只管農村啓蒙ニ努力シ来リタルモノ

被告人後藤圀彦ハ大正十年茨城縣立水戸農学校卒業後一時同縣北相馬郡寺原村尋常高等小学校等ニ代用教員トシテ奉職シ翌十一年五月同縣那珂郡柳川村尋常高等小学校ノ訓導ト為リタルモ翌十二年四月其職ヲ辞シ同縣立農業教員養成所ニ入リ翌十三年

三月同養成所ヲ卒ヘ同年四月ヨリ同縣那珂郡川田村尋常高等小学校ノ訓導ニ復職シ爾来其職ニ在リタルカ昭和六年六月頃ヨリ被告人橘孝三郎ト相識リ同被告人ノ前示愛郷主義ニ心服シ同年九月ニ至リ自ラモ同主義ノ下ニ農村勤労生活ニ入ラムト欲シ其職ヲ辞シ同年十月頃ヨリ前記愛郷塾ニ来リ茲ニ其教師トシテ被告人橘孝三郎ヲ扶ケ農村子弟ノ教育ニ努メ傍ラ農場労働ニ従事シ居タルモノ

被告人林正三ハ明治四十五年茨城縣立水戸中学校ヲ卒業シ同年四月東京美術学校西洋画科ニ入学シ大正六年三月同校ヲ卒業シタルカ当時同被告人ト水戸中学校ノ同窓ナリシ被告人橘孝三郎カ前示ノ如ク皈農シ居タルヨリ被告人林正三モ右被告人橘孝三郎ニ共鳴シ前記農場ニ入リ農業ニ従事シ其傍ラ水戸市所在私立大成高等女学校同好文實科女学校及茨城縣東茨城郡川和田村赤塚所在私立水府高等女学校等ニ講師トシテ教鞭ヲ執リ尚被告人

橘孝三郎カ前述ノ如ク愛郷会ヲ創立スルヤ之ニ盡力シ同被告人カ更ニ愛郷塾ヲ設置スルヤ之カ教師ト為リ同被告人ヲ扶ケ以テ農村啓発ニ盡瘁シ来リタルモノ

被告人矢吹省吾同大貫明幹同小室力也同杉浦孝ハ孰レモ小学校卒業後被告人塙五百枝ハ茨城県立水戸中学校卒業後夫々被告人橘孝三郎ノ開設シタル前記愛郷塾ニ入リ同被告人ノ膝下ニ起臥シテ同被告人ノ所謂愛郷主義ノ下ニ薫陶ヲ受ケ傍ラ前示農場労働ニ従事シ居タルモノ

被告人横須賀喜久雄及同春田信義ハ孰レモ小学校卒業後曽テ右愛郷塾ニ入リ被告人橘孝三郎ヨリ被告人矢吹省吾等ト同様ナル薫陶ヲ受ケ同様農場労働ニ従事シ居タルカ後夫々都合ニ依リ退塾シタルモノ

被告人高根沢与一ハ小学校中途退学ノ後水戸市上市裏信願寺町花屋「花金」ニ雇ハレ居ル中被告人大貫明幹ト相知リ被告人橘

孝三郎ニ私淑スルニ至リタルモノ

被告人奥田秀夫ハ昭和五年三月朝鮮咸鏡北道羅南中学校第四学年ヲ修了シ同年四月明治大学豫科一種英法科ニ入学シ当時同豫科ニ在学中ナリシカ夙ニ国家革正ヲ志シ居タル井上昭等ノ思想及行動ニ共鳴シ居リタルモノ

被告人池松武志ハ昭和三年三月私立開成中学校ヲ卒業シ同年四月陸軍士官学校豫科ニ入学シ一年間休学ノ上昭和六年三月同豫科ヲ卒業シ同年四月六日朝鮮羅南野砲兵第二十五聯隊ニ入隊同日陸軍士官候補生ヲ命セラレ同年十月一日陸軍士官学校本科ニ入リタルトコロ国家改造問題ニ関シ同期生ノ執筆シタル文書ヲ印刷配布シタル廉ニ依リ昭和七年一月二十五日同校当局ヨリ退校處分ヲ受ケ同年二月陸軍士官候補生ヲ免セラレタルカ其後ヲ通シ当時国家改造思想ヲ抱懐シ居タル陸軍中尉菅波三郎ノ指導ヲ受ケ居リタルモノ

孝三郎ニ私淑スルニ至リタルモノ

被告人奥田秀夫ハ昭和五年三月朝鮮咸鏡北道羅南中学校第四学年ヲ修了シ同年四月明治大学豫科一種英法科ニ入学シ当時同豫科ニ在学中ナリシカ夙ニ国家革正ヲ志シ居タル井上昭等ノ思想及行動ニ共鳴シ居リタルモノ

被告人池松武志ハ昭和三年三月私立開成中学校ヲ卒業シ同年四月陸軍士官学校豫科ニ入学シ一年間休学ノ上昭和六年三月同豫科ヲ卒業シ同年四月六日朝鮮羅南野砲兵第二十五聯隊ニ入隊同日陸軍士官候補生ヲ命セラレ同年十月一日陸軍士官学校本科ニ入リタルトコロ国家改造問題ニ関シ同期生ノ執筆シタル文書ヲ印刷配布シタル廉ニ依リ昭和七年一月二十五日同校当局ヨリ退校処分ヲ受ケ同年二月陸軍士官候補生ヲ免セラレタルカ其後ヲ通シ当時国家改造思想ヲ抱懐シ居タル陸軍中尉菅波三郎ノ指導ヲ受ケ居リタルモノ

孝三郎ニ私淑スルニ至リタルモノ

被告人奥田秀夫ハ昭和五年三月朝鮮咸鏡北道羅南中学校第四学年ヲ修了シ同年四月明治大学豫科一種英法科ニ入学シ当時同豫科ニ在学中ナリシカ夙ニ国家革正ヲ志シ居タル井上昭等ノ思想及行動ニ共鳴シ居リタルモノ

被告人池松武志ハ昭和三年三月私立開成中学校ヲ卒業シ同年四月陸軍士官学校豫科ニ入学シ一年間休学ノ上昭和六年三月同豫科ヲ卒業シ同年四月六日朝鮮羅南野砲兵第二十五聯隊ニ入隊同日陸軍士官候補生ヲ命セラレ同年十月一日陸軍士官学校本科ニ入リタルトコロ国家改造問題ニ関シ同期生ノ執筆シタル文書ヲ印刷配布シタル廉ニ依リ昭和七年一月二十五日同校当局ヨリ退校處分ヲ受ケ同年二月陸軍士官候補生ヲ免セラレタルカ其後ヲ通シ当時国家改造思想ヲ抱懐シ居タル陸軍中尉菅波三郎ノ指導ヲ受ケ居リタルモノ

被告人堀川秀雄ハ大正十四年三月茨城縣立師範学校本科一部ヲ卒業シ同縣那珂郡中野村中野尋常高等小学校ノ訓導ト為リ後昭和二年四月前記師範学校専攻科ニ入リ翌三年四月卒業シ爾来同郡前渡村前渡尋常高等小学校同郡湊町湊尋常高等小学校等ニ教鞭ヲ執リ更ニ昭和七年四月以降同郡神崎村本米崎尋常高等小学校ノ訓導ト為リタルモノ

被告人照沼操ハ昭和二年三月茨城縣立水戸農学校ヲ卒業シ同年四月同縣那珂郡前渡村前浜尋常小学校ノ代用教員ヲ命セラレ昭和七年三月三十一日依願退職シタルモノ

被告人黒沢金吉ハ小学校卒業後農業ニ従事シ被告人川崎長光ハ昭和四年三月茨城縣那珂郡湊町湊商業学校ヲ卒業シ一度ヒ上京シタルカ後歸郷シテ農業ニ従事シ居タルモノニシテ被告人堀川秀雄同照沼操同黒沢金吉及同川崎長光ノ四名ハ孰レモ前示井上昭ノ薫陶ヲ受ケ居タルモノ

ナルトコロ被告人橘孝三郎ハ夙ニ國家ノ革正ヲ志シ其抱懐スル國民共同体王道國家ノ理想ヲ以テ我國現下ノ國情ヲ眺メ経済界ノ不況思想界ノ動揺孰レモ其極ニ達シ疑獄事件ハ踵ヲ接シテ起リ國民精神日ニ頽廃シ殊ニ農村ノ疲弊甚タシク農民ノ窮乏言語ニ絶スル所以ノモノハ畢竟國民カ徒ニ西洋唯物文明ノ爛熟ニ酔ヒ全ク愛國同胞精神ヲ喪ヒ支配階級タル政党財閥並特权階級ハ互ニ相結託シテ私利私慾ヲ逞ウシ國政ヲ弄ヒ何等ノ経綸ナクシテ其地位ニ據ルカ為ニ外ナラス此侭ニ之ヲ放置セムカ國家ハ遂ニ滅亡ノ淵ニ瀕スルニ至ルヘシト観念シ従来ノ所謂愛郷主義ノ如キ平和的手段ヲ以テシテハ到底此農村ノ不況ヲ打開シ農民ノ窮乏ヲ救ヒ國家ヲ累卵ノ危機ヨリ脱セシムルニ由ナキモノト思惟シ遂ニ非常手段ニ依リ右支配階級タル政党財閥並特権階級等ニ打撃ヲ与ヘ以テ國家革正ノ烽火ヲ揚ケムトスルノ思想ヲ抱懐シ爾来同被告人ハ該思想ヲ被告人後藤圀彦同林正三同矢吹省吾

同横須賀喜久雄同大貫明幹同堀五百枝同小室力也同春田信義同杉浦孝及元愛郷塾生亡温水秀則等ニ鼓吹シ右被告人等モ亦被告人橘孝三郎ノ該思想ニ共鳴シ同被告人ト志ヲ同シウスルニ至リタリ一方被告人奥田秀夫ハ前示井上昭ノ薫陶ニヨリ被告人池松武志ハ前記菅波三郎ノ指導ヲ受ケ夫々我カ國現下ノ國情ヲ視テ之カ革正ニ志シ被告人堀川秀雄同照沼操同黒沢金吉同川崎長光ノ四名モ亦井上昭ノ感化ヲ受ケ常ニ想ヲ現下ノ國情ニ致シ革正ノ烽火揚リ指令一度ヒ降ラハ何時ニテモ之ニ馳セ参スルノ臍ヲ固メ居タル折柄昭和七年二月頃前示井上昭ハ古内栄司等ト共ニ國家革正ヲ企テ支配階級打倒ノ実行運動ニ着手シ所謂一人一殺主義ノ下ニ順次政界財界並特権階級等ノ巨頭暗殺ヲ決行セムントシ先ツ同月九日同志小沼正カ井上準之助ヲ同年三月五日同志菱沼五郎カ團琢磨ヲ各暗殺シタルカ其一味ハ間モナク検挙セラレタルヨリ当時海軍部内ニ在リ

テ右井上昭等ト呼應シ國家革正運動ヲ継續シ居リタル海軍中尉古賀清志及同中村義雄ハ同シク海軍中尉三上卓同山岸宏海軍少尉村山格之豫備海軍少尉黒岩勇等ト共ニ右井上昭等ノ後ヲ承ケ我カ國現下ノ情勢ヲ目シ政治経済共ニ行詰リ政党財閥並特権階級等ハ互ニ相結託シ國政ヲ紊リ國民ヲ極度ニ圧迫シ殊ニ最近ニ於ケル支配階級ノ堕落ハ到底傍観ヲ許ササルモノ在リト為シ手榴弾及拳銃等ヲ使用シ非常手段ニ依リ支配階級ニ一撃ヲ加ヘ彼等ノ覚醒ヲ促サムコトヲ企圖シ其ノ計画ヲ樹ツルニ至リタリ而シテ右古賀清志及中村義雄ハ昭和七年三月二十一日頃當時東京府豊多摩郡大久保町百人町（現在東京市淀橋區百人町）渋川善助方ニ於テ後藤映範坂元兼一篠原市之助八木春雄石関栄野村三郎菅勤西川武敏金清豊吉原政巳等陸軍士官候補生及被告人池松武志ト相會シ古賀清志ヨリ前示計画ヲ告ケ之カ参加ヲ求メタルトコロ右陸軍士官候補生等及被

告人池松武志ハ孰レモ直チニ之ヲ承諾シ後陸軍士官候補生中島忠秋モ亦之ニ参加シ同月下旬頃右中村義雄ハ當時東京府豊多摩郡野方町新井四百五十三番地（現在東京市中野區新井四百五十三番地）林新太郎方等ニ於テ被告人奥田秀夫ト會見シ同被告人ヲ前示企圖ニ参画セシメ其頃右古賀清志ハ前示愛郷塾ニ於テ被告人橘孝三郎ニ対シ右企圖ヲ打明ケ同被告人ノ蹶起ヲ促シタルヨリ同被告人ハ既ニ前記ノ如ク非常手段ニ依ル現状打開ヲモ辞セサルノ意圖ヲ抱懐シ居タル際ナリシヲ以テ敢然愛郷塾生等ヲ率ヒテ之ニ参加スルコトヲ承諾シタリ、

斯クテ被告人橘孝三郎ハ其ノ頃ヨリ同年五月上旬頃迄ノ間ニ亘リ順次被告人後藤圀彦同矢吹正吾同塙五百枝同大貫明幹同小室力也及亡温水秀則被告人林正三同横須賀喜久雄同春田信義等ニ前示企圖ヲ告ケ同被告人等ヲシテ之ニ参加セシメ同年五月上旬頃被告人杉浦孝モ亦之カ行動ヲ共ニスルニ至リタル

カ一方被告人橘孝三郎ハ同年三月下旬被告人後藤圀彦ヲシテ
被告人堀川秀雄ト交渉セシメ同被告人ヲ介シ更ニ被告人照沼
操同黒沢金吉同川崎長光ト會見シ被告人後藤圀彦ハ同所ニ於
テ被告人照沼操ト相會シ夫々前示計画ニ参加スヘキコトヲ求
メ漸次被告人堀川秀雄同照沼操同黒沢金吉同川崎長光ヲシテ
右計画ニ加擔セシメタリ

其前後ヲ通シ被告人橘孝三郎同後藤圀彦同林正三同池松武志
同奥田秀夫ハ或ハ数人相共ニ或ハ各自單独ニ屡々茨城縣新治
郡土浦町大和三千三百三十三番地料亭山水閣其他東京市内外
等ニ於テ前示古賀清志中村義雄黒岩勇等ト會合協議ヲ遂ケ
其他ノ前示各被告人等モ夫々互ニ相連絡シ結局右古賀清志等
海軍将校後藤映範等陸軍士官候補生被告人池松武志及同奥田
秀夫等ニ於テハ首相官邸内大臣官邸政党本部警視廳及大銀行
等ヲ手榴弾並拳銃等ヲ以テ襲撃シ以テ治安ヲ妨ケ内閣總理大

臣犬養毅ヲ殺害シ右襲撃ヲ阻止スル者ハ之ヲ射殺シ被告人橘孝三郎一派ノ民間側同志等ニ於テハ當時東京市内外ニ電力ヲ供給シ居タル重要ナル変電所数個所ヲ夫々手榴弾ヲ以テ襲撃シ帝都ノ暗黒化ヲ図リ一般人心ヲ混乱状態ニ陥レ以テ治安ヲ妨ケ次ニ被告人川崎長光ニ於テハ右機會ニ乗シ従来国家革正計画遂行ノ妨害ヲ為スカ如キ疑アリタル西田税ヲ暗殺シ因テ以テ国家革正ノ捨石タラムコトヲ決定シ次テ被告人大貫明幹ハ同年五月十五日其知人タル被告人高根沢與一ニ対シ右計画ニ加擔スヘキコトヲ慫慂シ同被告人ヲシテ之カ決行ヲ共ニスルコトヲ承諾セシメタリ

茲ニ於テ以上全部共謀ノ上

(ハ) 右古賀清志等海軍将校後藤映範等陸軍士官候補生被告人池松武志同奥田秀夫等十九名ハ四組ニ分レ昭和七年五月十五日午後五時過頃ヨリ拳銃及手榴弾等ヲ携ヘ相前後シテ

(1)

第一組タル海軍中尉三上卓同山岸宏海軍少尉村山格之豫備海軍少尉黒岩勇陸軍士官候補生後藤映範同八木春雄同石関栄同篠原市之助及同野村三郎等九名ハ東京市麹町區永田町二丁目一番地内閣總理大臣官邸ニ到リ三上卓ハ先ツ同所ヲ警固シ居タル警視廳巡査田中五郎ヲ拳銃ニテ狙撃シ次テ三上卓及黒岩勇ハ同官邸日本間玄関前ニ於テ同人等ニ対シ警視廳巡査平山八十松カ向ヒ来ルヲ認ムルヤ同巡査目蒐ケテ拳銃ヲ發射シ夫々命中セシメ右犬養首相ノ顳顬部前頭部等及田中巡査ノ季肋部等ニ銃創ヲ蒙ラシメ右犬養首相ヲシテ同月十六日午前二時三十五分頃同所ニ於テ右銃創ニ起因スル出血ニヨリ脳圧迫症呼吸及心臓麻痺ノ為メ右田中巡査ヲシテ同月二十六日午前四時五十五分頃同市赤坂區傳馬町一丁目二十番地前田外科病院ニ於テ右銃創ニ因ル急性腹膜炎ノ為夫々死亡セシメ右平

山巡査ニ対シテハ右大腿部及左前膊部等ニ治療日数約一月半ヲ要スル貫通銃創ヲ負ハシメタルニ止マリ同人ヲシテ死亡セシムルニ至ラス

(2) 第二組タル海軍中尉古賀清志陸軍士官候補生坂元兼一同菅勤同西川武敏及被告人池松武志ノ五名ハ同市芝区三田台町一丁目五番地内大臣官邸ニ赴キ右古賀清志及被告人池松武志ノ両名ハ所携ノ手榴弾各一個ヲ順次同官邸表門ヨリ同官邸内目蒐ケテ投擲使用シ以テ古賀清志ノ投シタル一個ヲ炸裂セシメ尚同人ハ折柄右投弾ヲ阻止セムトシタル警視庁巡査橋井亀一ヲ所持ノ拳銃ニテ射撃シ同人ニ対シ其左肩部ニ治療日数約三週間ヲ要スル貫通銃創ヲ蒙ラシメタルモ同人ヲシテ死亡セシムルニ至ラス

(3) 第三組タル海軍中尉中村義雄陸軍士官候補生中島忠秋同金清豊同吉原政巳ノ四名ハ同市麹町区内山下町一丁目

一番地立憲政友會本部ニ到リ右中村義雄及中島忠秋ノ西名ニ於テ所携ノ手榴弾各一個ヲ順次同本部正門玄関目蒐

(4) ケテ投擲使用シ中島忠秋ノ投シタル一個ヲ炸裂セシメ次テ前示五月十五日午後五時四十分頃以上三組ハ合流シテ同區外櫻田町一番地警視廳ニ赴キ右金清豊坂元兼一菅勤ノ三名ハ同廳建物目蒐ケテ所携ノ手榴弾各一個ヲ順次投擲使用シ金清豊ハ投シタル一個ヲ炸裂セシメ一方古賀清志西川武敏及被告人池松武志ノ三名ハ同所ニ居合セタル警視廳書記長坂弘一及讀賣新聞記者高橋巍ヲ所携ノ各拳銃ニテ交々狙撃シ右長坂弘一ニ対シ其下顎部及右膝

(5) 胴部ニ治療日数約四週間ヲ要スル貫通並盲管銃創ヲ右高橋巍ニ対シ其右下腿部ニ治療日数約三週間ヲ要スル貫通銃創ヲ夫々蒙ラシメタルモ孰レモ死亡セシムルニ至ラス更ニ第一組中ノ前示黒岩勇村山格之八木春雄野村三郎

一番地立憲政友會本部ニ到リ右中村義雄及中島忠秋ノ西名ニ於テ所携ノ手榴弾各一個ヲ順次同本部正門玄関目蒐ケテ投擲使用シ中島忠秋ノ投シタル一個ヲ炸裂セシメ

(4) 次テ前示五月十五日午後五時四十分頃以上三組ハ合流シテ同區外櫻田町一番地警視廳ニ赴キ右金清豊坂元兼一菅勤ノ三名ハ同廳建物目蒐ケテ所携ノ手榴弾各一個ヲ順次投擲使用シ金清豊ハ投シタル一個ヲ炸裂セシメ一方古賀清志西川武敏及被告人池松武志ノ三名ハ同所ニ居合セタル警視廳書記長坂弘一及讀賣新聞記者高橋巍ヲ所携ノ各拳銃ニテ交々狙撃シ右長坂弘一ニ対シ其下顎部及右膝胴部ニ治療日数約四週間ヲ要スル貫通並盲管銃創ヲ右高橋巍ニ対シ其右下腿部ニ治療日数約三週間ヲ要スル貫通銃創ヲ夫々與ヘタルモ孰レモ死亡セシムルニ至ラス

(5) 更ニ第一組中ノ前示黒岩勇村山格之八木春雄野村三郎

(イ)

ノ四名ハ同市日本橋區本両替町三番地日本銀行ニ赴キ右野村三郎ニ於テ所携ノ手榴彈一個ヲ同銀行建物目蒐ケテ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメ

第四組トシテ被告人奥田秀夫ハ前示五月十五日午後七時頃同市麹町區丸ノ内二丁目三番地株式會社三菱銀行裏ニ到リ所携ノ手榴彈二個ノ内一個ヲ同銀行建物目蒐ケテ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメ

(ロ) 被告人橘孝三郎一派ノ民間側同志ニ於テハ同被告人及被告人後藤圀彦同林正三ノ意ヲ承ケ亡塩水秀則並被告人矢吹正吾同横須賀喜久雄同塙五百枝同大貫明幹同高根沢其一同小室力也ノ七名カ夫々手榴彈ヲ以テ當時東京府豊多摩郡淀橋町大字角筈五百八十六番地ニ現在東京市淀橋區淀橋五百八十六番地ニ所在東京電燈株式會社淀橋變電所外當時ノ東京市外及埼玉縣下ノ變電

所五個所ヲ襲撃スルノ手筈ヲ定メタル上前示五月十五
日午後七時十五分頃ヨリ一発電所ニ付一個ノ割合ヲ以
テ手榴弾ヲ携ヘ相前後シテ各発電所ニ到リ結局亡温水
秀則ニ於テ前示淀橋発電所ニ手榴弾一個ヲ投擲使用シ
以テ之ヲ炸裂セシメタル外被告人矢吹正吾ニ於テ當時
東京府南葛飾郡小松川町下平井高田三百二十八番地（現
在東京市江戸川区平井二丁目三百二十八番地）所在前
示會社亀戸発電所ニ対シ被告人横須賀喜久雄ニ於テ埼
玉縣北足立郡鳩ヶ谷町三ツ和二千七百四十六番地所在
前示會社鳩ヶ谷発電所ニ対シ被告人大貫明幹及同高根
沢與一ニ於テ當時東京府北豊島郡尾久町下尾久二百番
地（現在東京市荒川区尾久町二丁目二百番地）所在鬼
怒川水力電氣株式會社東京発電所ニ対シ夫々一個ノ手
榴弾ヲ投擲使用シ以テ被告人横須賀喜久雄ノ投シタル

一個ヲ炸裂セシメ

(八) 被告人川崎長光ニ於テハ前示計画中西田税暗殺方ヲ引受ケ前示五月十五日午後六時過頃當時東京府豊多摩郡代々幡町代々木山谷百四十四番地（現在東京市渋谷区代々木山谷町百四十四番地）西田税方ニ到リ同家二階六畳ノ間ニ於テ同人ト対談中同日午後七時頃突如所携ノ拳銃ニテ同人ヲ狙撃シ同人ニ弾丸数発ヲ命中セシメタルモ同人ニ抵抗セラレタル為僅ニ同人ニ対シ其右側胸部外四個所ニ治療日数約三月ヲ要スル貫通並盲管銃創ヲ蒙ラシメタルニ止マリ之カ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

其ノ間ニ於テ

（以下次葉）

8

協議ヲ遂ケ且其間前後四回ニ亘リ右山水閣等ニ於テ古賀清志ヨリ直接又ハ被告人後藤圀彦同林正三等ノ手ヲ介シ右計畫ノ費用トシテ合計金千四百圓ヲ受取リ其頃其一部ヲ被告人矢吹正吾同横須賀喜久雄同塙五百枝同大貫明幹同小室力也同春田信義及亡温水秀則等ニ發電所襲撃ノ費用トシテ分與シ

（八）

同年四、五月ノ交愛郷塾関係被告人等ヲシテ順次上京セシメ同年五月一日以降数次東京市牛込區東五軒町三十五番地林正一方等ニ於テ襲撃場所及手榴彈ノ効力等其他前示計画遂行ニ付會合協議シ其頃右被告人等ノ數名ヲシテ變電所ノ所在等ノ調査ヲ為サシメ特ニ同月八日前記林正一方ニ於テ被告人林正三同矢吹正吾同横須賀喜久雄同塙五百枝同大貫明幹同小室力也同春田信義及温水秀則ト相會シ被告人矢吹正吾カ東京電燈株式會社亀戸變電所ノ同横須賀喜久雄カ同

會社鳩ヶ谷変電所ノ同塙五百枝カ同會社田端変電所ノ同小室力也カ同會社目白変電所ノ亡温水秀則カ同會社淀橋変電所ノ被告人大貫明幹カ鬼怒川水力電氣株式會社田端変電所ノ各襲撃ヲ分擔スルコトニ付協議シ且手榴彈ノ使用方法其効力等ニ付意見ヲ交シ同月十一日明治神宮外苑日本青年館ニ於テ右被告人等ト被告人後藤圀彦ヲ加ヘテ協議ヲ為シ前示襲撃ノ分擔ヲ確定シ

同年五月六日頃被告人林正三ヲシテ當時東京府北豊島郡王子町下十條千百五十番地（現在東京市王子區下十條千百五十番地）田代平方ニ於テ黒岩勇ノ手ヲ経テ古賀清志ヨリ手榴彈六個（昭和七年押第六六〇號ノ一及九同年押第六六三號ノ一七及一八外二個）ヲ受取ラシメ之ヲ同月十四日被告人後藤圀彦ヲシテ東京市下谷區茅町一丁目一番地八千代館事飯田ミツ方ニ於テ亡温水秀則及前示変電所襲撃分擔ノ

各被告人ニ交付セシメタル外同月七日頃以降同月十四日頃 2
迄ノ間ニ被告人杉浦孝ヲシテ被告人矢吹正吾同大貫明幹亡
温水秀則等及豫テ前示計画ニ参加ノ意思アリタル宮本幸雄
ニ對シ夫々右計畫ニ關係スル事項ノ通知ヲ為サシメ

(ホ) 次ニ古賀清志ノ意ヲ體シ同年三月下旬頃被告人後藤圀彦ヲシテ茨城縣那珂郡湊町湊尋常高等小學校ニ於テ被告人堀川秀雄ニ對シ前示計畫ヲ通告セシメ同月二十八日以降同年五月上旬頃迄ノ間ニ數回前記愛郷塾ニ於テ同被告人ト右計畫ニ付會談シ同被告人ヲシテ被告人照沼操同黒澤金吉同川崎長光ニ通達セシメ同年四月中旬右愛郷塾ニ於テ被告人後藤圀彦ヲシテ被告人照沼操ト會見セシメ更ニ直接被告人川崎長光ト面接シテ右計畫ニ付談合シ結局被告人堀川秀雄同照沼操同黒澤金吉同川崎長光ヲシテ漸次該計畫ニ加擔セシメ特ニ同年四月下旬前記愛郷塾ニ於テ被告人堀川秀雄ト同

計畫ニ付謀議シ被告人川崎長光ヲシテ西田税暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ調ヘ被告人堀川秀雄ニ對シ其旨被告人川崎長光ニ勧説スヘキコトヲ慫慂シ以テ被告人川崎長光ヲシテ西田税暗殺ヲ引受ケシムルニ至リタルモノナリ。

(二) 被告人後藤圀彦ハ昭和七年三月下旬被告人橘孝三郎ヨリ前示計畫ニ參加スヘキコトヲ求メラレテ直チニ之ニ應シ爾来仝被告人ヲ扶ケテ該計畫ノ進捗ヲ圖リ

(イ) 其頃同被告人ノ意ヲ承ケテ前記湊尋常高等小学校等ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協議シ同被告人ヲシテ被告人照沼操同黒澤金吉同川崎長光ト連絡セシメ同年四月中旬頃前記愛郷塾ニ於テ被告人照沼操ト會談シ前示計畫參加ヲ慫慂シ一方其前後ニ亘リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間屢前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橘孝三郎ト共

（ロ）

ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付謀議シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水園外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百円ヲ受取リ其頃之ヲ前示愛郷塾ニ於テ被告人橘孝三郎ニ交付シ更ニ同年五月一日頃愛郷塾関係被告人等ノ上京ヲ糊塗セムカ為東京駅出発渡満シ同月四日満洲奉天ニ於テ被告人塙五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛信書等ヲ投函シテ同月九日歸京シ

同年五月十日前示日本青年館ニ於ケル會合ニ出席ノ上協議ヲ遂ケ同月十二日以降ニ於テ被告人橘孝三郎ニ代リテ采配ヲ執リ同日東京市下谷區上野黒門町蕎麦屋岸本米次郎方ニ於テ被告人林正三及同矢吹正吾等前示變電所襲撃分擔ノ各被告人等ト會合ノ上手榴彈分配方法等ニ付協議決定シタル後同月十四日当時止宿シ居タル前示八千代館ニ於テ被告

人林正三ヨリ前記手榴彈六個ヲ受取リ夫々拔擲セシムル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ亡温水秀則及被告人塙五百枝ニ對シ手榴彈各二個ヲ被告人横須賀喜久雄及同小室力也ニ對シ手榴彈各一個ヲ手交シ亡温水秀則ヲシテ其内一個ヲ被告人矢吹正吾ニ被告人塙五百枝ヲシテ其内一個ヲ被告人大貫明幹ニ各交付セシメ

同月十三日茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地未栖萬之助方ナル古賀清志ノ下宿先ニ於テ同人ヨリ西田税暗殺ニ使用セシムル目的ヲ以テ拳銃一挺（昭和七年押第六六三號ノ八）及實彈八発ヲ受取リ之ヲ其頃被告人林正三ニ手交シ同被告人ヲシテ同月十四日前記愛郷塾ニ於テ被告人川崎長光ニ交付セシメ同月十五日同被告人カ上京スルヤ同被告人ヲ省線鶯谷驛ニ迎ヘ前記八千代館ニ伴ヒ同所ニ於テ同被告人ニ對シ同日右鶯谷驛ニ於テ被告人矢吹正吾同横須

賀喜久雄同塙五百枚及七温水秀則ヨリ受取リタル金員ニ自己所持ノ金員ヲ加ヘ合計金三十五円ヲ被告人川崎長光ノ西田税暗殺決行ノ為ノ費用トシテ交付シ更ニ同日東京市芝區芝公園水交社ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ金ニ百円ヲ受取リ同日當時東京府荏原郡大崎町桐ヶ谷百四十八番地（現在東京市品川區西大崎ニ丁目百四十八番地）清水安雄方ナル被告人小室力也ノ止宿先等ニ於テ同被告人及被告人横須賀喜久雄同矢吹正吾並七温水秀則等ニ前示計畫決行ノ費用トシテ其一部ヲ分與シタルモノナリ。

(三)

被告人林正三ハ昭和七年四月中旬前記計画ニ加擔シ被告人橘孝三郎ヲ補佐シテ該計画遂行ニ努力シ

(イ) 同月下旬頃當時東京府北豊島郡高田町雑司ヶ谷六百九十四番地(現在東京市豊島區高田町雑司ヶ谷六百九十四番地)所在ノ被告人橘孝三郎ノ借家ニ於テ同被告人及古賀清志黒岩勇ト會合シ前示計画殊ニ変電所襲撃用手榴弾ノ交付ヲ受クルニ付協議シ更ニ其頃ヨリ同年五月下旬ニ亘リ前記田代平方等ニ於テ黒岩勇ト數回談合シ同月六日右田代平方ニ於テ黒岩勇ノ手ヲ経テ古賀清志ヨリ手榴弾合計六個ノ交付ヲ受ケテ之ヲ保管シ同月十四日前示八千代館ニ於テ被告人後藤圀彦ニ手交シ一面同年五月一日以降同月中旬ニ至ル迄ノ間前記林正一方等ニ於ケル前掲會合ニ出席シ被告人橘孝三郎及同矢吹正吾等愛郷塾関係被告人数名ト襲撃場所及手榴弾ノ効力等其他前記計画遂行ニ付協議ヲ爲シ殊ニ同月十二

日前掲岸本米次郎方ニ於ケル談合ニ依リ手榴弾分配ノ方法等ヲ確定シ尚同年四月三十日前掲林正一方ニ於テ古賀清志ヨリ右計画ノ費用トシテ金五百円ヲ受取リ同日同所ニ於テ之ヲ被告人橘孝三郎ニ交付シ

(ロ)

同月十四日前記八千代館ニ於テ被告人後藤圀彦ヨリ西田税暗殺用ノ拳銃一挺及実弾八発ヲ受取リ同日前示愛郷塾ニ於テ被告人堀川秀雄同照沼操同黒沢金吉同川崎長光ト前示計画殊ニ西田税暗殺ニ付協議シ右西田税暗殺ノ使命ヲ帯ヒテ上京スル被告人川崎長光ニ対シ右拳銃一挺及実弾八発ヲ手交シ其使用方法ヲ傳ヘ被告人堀川秀雄ト共ニ其上京費用ヲ交付シ更ニ同日被告人杉浦孝ヲシテ被告人川崎長光ノ上京ノ時間等ヲ前掲八千代館止宿ノ被告人後藤圀彦ニ通報セシメタル上翌十五日早朝被告人川崎長光カ上京ノ途ニ就カムトスルヤ被告人堀川秀雄ト共ニ其服装等ニ付種々斡旋シ

2

タルモノナリ

(四) 被告人矢吹正吾ハ昭和七年四月上旬前示計畫ニ參加シ同年五月一日上京ノ上爾來主トシテ當時ノ東京市外亀戸町方面所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付視察ヲ續ケ且其頃前記林正一方等ニ於ケル被告人橘孝三郎等トノ會合ニ出席シ襲撃場所及手榴彈ノ効力等其他前示計畫遂行ニ付協議ヲ行ヒ其結果前記東京電燈株式會社亀戸變電所ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スルコトヲ引受ケ同月十二日前掲岸本米次郎方ニ於ケル被告人後藤圀彦等トノ協議ニ基キ同月十五日前記八千代館ニ於テ亡温水秀則ヨリ同人カ同日同所ニ於テ被告人後藤圀彦ヨリ託セラレタル手榴彈一個（昭和七年押第六六〇號ノ九一）ヲ受取リ同日午後七時十五分過頃前示亀戸變電所ニ到リ構内ポンプ小屋目蒐ケテ右手榴彈ヲ投擲使用シタルモノナリ

(五) 被告人横須賀喜久雄ハ昭和七年五月初頃前示計畫ニ參加シ

同月三日上京ノ上爾来同月六日頃ヨリ當時ノ東京市外目白附近所在其他ノ変電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付視察ヲ為シ同月七日以降前記林正一方等ニ於テ開催セラレタル被告人橘孝三郎等トノ會合ニ出席シ襲撃場所及手榴弾ノ効力等其他前示計画遂行ニ付協議ヲ遂ケ其結果前掲東京電燈株式會社鳩ヶ谷変電所ヲ手榴弾ヲ以テ襲撃スルコトヲ引受ケ同月十二日前記岸本米次郎方ニ於ケル被告人後藤圀彦等トノ協議ニ基キ同月十四日前掲八千代館ニ於テ同被告人ヨリ手榴弾一個ヲ受取リ同月十五日午後七時過頃前示鳩ヶ谷変電所ニ到リ同所構内目蒐ケテ右手榴弾ヲ投擲使用シテ之ヲ炸裂セシメタルモノナリ

六) 被告人堀五百枝ハ昭和七年四月上旬前示計画ニ参加シ同年五月一日上京ノ上爾来主トシテ當時ノ東京市外田端方面所在ノ変電所ノ位置及附近ノ状況等ヲ單独又ハ被告人春田信義ト共ニ視察シ且前示林正一方等ニ於ケル被告人橘孝三郎等トノ